

# 防災・安全

さらに頻発する都市型水害に備えて

石毛航太郎議員(フオ) ①局地的な浸水があった場合の情報伝達は。

②注意が必要な地域は。③周辺市へ雨水が流れてしまいう地域への対応は。

市長 ①豪雨の影響が予想された場合は各担当課を集め、緊急時の情報連絡体制をしいて、早急な対応に努めている。

②1時間に50ミメートル以上の雨量になると、市内全域に注意を払う必要がある。③要請があれば土のうの貸与が可能である。

個人情報報の共有化はできないか

藤原哲重議員(フオ) ①個人情報保護法により、防犯・防災の点で不都合を感じることは。

②自治会で必要な情報をどこまで提供できるか。また、民生委員が把握している情報を自治会と共有できないか。

市長 ①安否確認や地震等の被害軽減のため、個人情報の共有は有効だが、自治会等で地域すべての情報を集約することは困難であり、身近なところでの情報の共有化が必要である。②対象者から同意が得られれば、共有できると考える。

防災面から公園に隣接する住民への配慮はできないか

宮崎照夫議員(政和) ①災害等に備え、隣接する公園に非常



小川西町防災広場

避難口を設置したいという要望があつたが対応は。②地域の小公園も、防災面での活用が必要では。

市長 ①管理上、また公平性の点で難しいと説明し理解を得た。②一時集合場所等として活用するよう案内したい。

③昨年度から市立の全小学校等で自治会、自主防災組織、緊急初動要員の市職員等が参加し、防災訓練を実施している。

防災計画の中で海外伝染病研究施設等との連携が必要では

橋本久雄議員(緑ネ) ①農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所の海外伝染病研究施設や農林水産消費安全技術センター・農薬検査部との交流は。

②防災計画にこれらの施設への対策を入れる必要はないか。③これらの施設と定期的な情報交換が必要ではないか。

市長 ①業務内容について、防災面でかわつたことはない。

②地域防災計画では、多摩小平保健所が中心となつて対応する施設と位置づけている。③特殊性などを考慮し、直ちに情報交換することは考えていない。

増加する空き家・空き地問題への対応について

佐野都夫議員(政和) ①空き地の管理の適正化に関する条例に基づく対応は。②空き地、空き家の有効活用

## 産業振興

学園坂商店街に齋藤素蔵の記念館等の設立を

浅倉成樹議員(公明) ①齋藤素蔵と小平市との関係や、作品が寄贈されたいきさつは。②記念館等を学園坂商店街に設置できないか。

教育長 ①昭和18年に学園東町に移り住み、制作活動をしてきた。遺族から寄附の申し入れがあつたため、270点を超える彫刻石こう作品を受け入れ、平成3年度からブロンズ化を進め、公共施設等に設置してきた。

齋藤素蔵作品「交通」(あじさい公園)



を考えては。③空き家の管理に対する条例等をつくれぬか。

市長 ①年3回定期的にパトロールを実施し、所有者に除草の勧告を行っている。

②今後問題になれば、空き地等を活用し安全・安心で快適な住環境の形成に向けたまちづくりの手法を検討する必要がある。③都市計画マスタープランの実現に向けた指導を行つており、制定は考えていない。

市長 ②市として設置する考えはないが、商店街が彫刻により魅力アップや集客の増を図るのであれば支援したい。

地域ブランド確立に向け「小平エール」にエールを

齋藤貴亮議員(フオ) ①小平エールの年間製造量は。②地場産食材などを使った料理店を、市独自の目印でPRできないか。

③ブルーベリーのシンボルマークの活用方法は。市長 ①3千6百本ほどである。②小平ブルーベリー協議会で今後研究すると聞いている。

③小平ブルーベリー協議会は特産品としてのブランド化を、市ではイメージキャラクターと

して活用する考えである。※小平エールとは小平市内産のブルーベリーを使用した発泡酒のこと。原材料の小平産ブルーベリー



小平の野菜で学校給食の自給率向上を目指せ

鴨打喜久男議員(政和) ①学校給食の自給率は。②自給率向上のための政策は。③小平産の農産物を活用し、日野市の野菜給食月間のような事業ができないか。

教育長 ①昨年度は小学校7.5%、中学校15.4%である。②小学校は生産農家との直接契約を基本とし、中学校は学校給食センターと野菜生産者クラブ等が協議する中で使用量を伝え、調整を行っている。

③現在、生産者との話し合いの中で、政策や事業の研究を行っている。

間で、小・中学校合わせて8億6千8百万円である。②特に不都合がない限り、パソコンのリース時に従前と同等のハードウェアやソフトウェアを導入している。③中学校では校内LANの整備が整っているが、小学校では整っていないため検討したい。

目で見える省エネ学習を推進しよう

石毛航太郎議員(フオ) ①小・中学校での環境教育の必要性は。②環境教育の取り組みは。③課題は何か。

教育長 ①エネルギー・環境問題は人類の将来の生存にとつて重要な課題であり、さまざまな取り組みを推進している。②総合的な学習の時間等で環境の大切さなどを考える活動を行い、ごみの減量化や節電等の具体的な活動を通じて環境学習に取り組んでいる。

③生活習慣の中で考えることが重要であり、関係機関等との連携が必要である。

特別支援教育で障害傾向児童等へのサポートはどう変わったか

橋本久雄議員(緑ネ) ①サポート体制をつくる上での課題は。②具体的なサポートのために専門性を持った職員配置が必要ではないか。

③通常学級介助員の介助を受けている児童等へのサポートはどのようなことか。

教育長 ①安定した人材の確保である。②研修を充実し、地域と連携した教育を展開していきたい。③校内における移動、給食

着がえ等の学校生活にかかわることである。小川町一丁目土地画整理事業区域内等の十二小・五中通路

宮寺賢一議員(政和) ①武蔵野美術大学の構内の通行ができなくなった理由は。②美大通りから十二小への通路はどうなるか。③美大通りから五中通りの間を拡幅できないか。

市長 ①区画整理により構内の通行が不要となったためである。教育長 ②事業が完了した時点で、安全確保の観点から学校長が指定する。③安全な通学路と考えており、予定はない。状況に変化があれば適時対応する。

夏休み前と夏休み中の小・中学校の安全について

川里春治議員(政和) ①夏休み中の安全対策は。②移動教室が天候等の影響で計画どおりいかない場合に備え、複数の計画を用意しているか。③プールの鳥のふん対策は。

教育長 ①各学校で全職員を対象に研修を行い、児童・生徒のネットを張ったプール(上水中学校)



安全確保について共通理解を図っている。②計画の段階で雨天の場合を想定し、準備している。③上水中学校でプール全体にネットを張る対策を講じており、効果を確認しながら他の学校への導入を検討していく。

いつでも人のいる学校図書館にするには

立花隆一議員(公明) ①学校図書館支援センター推進事業と協力員の活動の実績は。②全小・中学校に学校司書を配置できないか。

教育長 ①初年度は調べ学習等に使用する図書の配送サービスを開始し、2年目はより実務的に支援を行った。協力員は学校図書館の整備を図るとともに、授業等の協力をした。②学校司書教諭等が中心となり、保護者やボランティア等の協力を得ながら充実を図ってきたい。

USBメモリー紛失事故を受け小・中学校職員室のIT化を

常松大介議員(フオ) ①公費で購入したパソコンは教員一人当たり何台で、充足しているか。②教員が私物のパソコンを持ち込む際の根拠は。③小・中学校の職員用のパソコンやインフラ整備費用は他市と比較して十分か。

教育長 ①0.13台で、充足しているとは言えない。②学校長が必要と認めた場合に限り許可している。③類似8市の中では十分とは言えないので、充実に向け検討したい。

## 教育・文化

小学校と中学校のパソコン事情と情報設備について

永田政弘議員(政和) ①小・中学校の情報機器にかかった総